

- 小中合同活動・自己肯定感の向上を目指した各校の取組について
- 地域の子どもの安全を守る取組について

泉台小学校

参加者 ○○、○○、○○、○○、○○

協議の記録

1 小中合同活動・自己肯定感の向上を目指した各校の取組について

○ 地域清掃の準備・雨天時に行った合同活動について

- ・ 雨天で実施できなくて大変残念であったが、子どもたちの様子を見て交流会は大変意義があった。
- ・ 中止の連絡が中学校と小学校から流れてきた。連絡方法の確立が必要。ボランティアとして参加してくださる方への連絡がつかなかったため、連絡方法等検討する必要がある。
- ・ 今回ような活動では、詳細が分かる文書を早めに共有してほしい。

○ 自己肯定感の向上を目指した各校の取組について

- ・ どの学校もよく取り組んでいる。自己肯定感を高めるために自己有用感をもたせる活動を進めている。自分を必要とされていることを感じる活動や自分が考え行動するといった意識改革に取り組んでいる。
- ・ 折鶴や異年齢グループの顔合わせ会など縦割り活動をとおして、6年生に最上級生としても意識や集団をまとめる力を育てていきたいと考えている。(学校より)
- ・ 様々な活動を通して、周りの人たちから認められることにより自己有用感が高まるという思いをもち実践に取り組んでいる。(学校より)

2 地域の子どもの安全を守る取組について

○ 地域で

- ・ 安全ボランティアの方がよく活動してくださっているが、コロナ禍で個人としての活動のようになっている。
- ・ 人手が集まらなくなっている。

○ 各家庭で

- ・ PTAなどの組織も自由参加となり、大変活動がしにくくなってきたことは理解できるが、保護者の活動も活発になるとよい。

○ 各学校で

- ・ 地域と学校が同じ方向をむいて取り組むことが今後も大切である。

- 小中合同活動・自己肯定感の向上を目指した各校の取組について
- 地域の子どもの安全を守る取組について

清水小学校

参加者 ○○、○○、○○、○○

協議の記録

1 小中合同活動・自己肯定感の向上を目指した各校の取組について

○ 地域清掃の準備・雨天時に行った合同活動について

- ・ 中学生と小学生の交流がとてもよい効果があったようである。次回も交流を事前に行ってから、活動するのがよい。

【2回目の小中合同活動について】

- ・ 校区のそれぞれに公園に、花壇があり現在管理している方がいるので、連絡調整が必要。
- ・ 公園に花を植えても、事後の水やりや、草取りなどの管理をするのはどうするのか。
- ・ 花の苗の資金調達はどうするのか。
- ・ 学校は花をプランターに植えて置く予定であったが、プランターは壊れやすく、破損した場合危険であることが懸念される。

○ 自己肯定感の向上を目指した各校の取組について

- ・ 学校だけでなく、地域の大人たちが様々な角度で児童に関わることでよい効果が得られる。
- ・ 市民センターにも、様々な取組をとおして、児童の居場所がある。
- ・ PTAとしても、これからも児童のために、地域や学校と連携する。

2 地域の子どもの安全を守る取組について

○ 地域で

協議する時間がありませんでした。

○ 各家庭で

協議する時間がありませんでした。

○ 各学校で

協議する時間がありませんでした。

- 小中合同活動・自己肯定感の向上を目指した各校の取組について
- 地域の子どもの安全を守る取組について

篠崎中学校

参加者 ○○、○○、○○、○○

協議の記録

1 小中合同活動・自己肯定感の向上を目指した各校の取組について

○ 地域清掃の準備・雨天時に行った合同活動について

地域の皆さんへの協力の呼びかけについて

- ・ まちづくり協議会など大きな会議で呼びかけるだけではなく、協力してくださる方を細やかに連携することが大切。
- ・ 今回は清掃場所と予定していた公園の近くにお住いの町内会長さんや、シニアクラブの代表の方に参加してくださる方を募るようお願いした。
- ・ 当日は雨天のため中止となったので、その連絡が効率的にできなかったのが課題として残った。

○ 自己肯定感の向上を目指した各校の取組について

- ・ 今回は中学2年生と小学5年生という校種を越えての縦割り活動だったが、報告を見ると異年齢交流は中学生にとっても小学生にとっても得るものがあったと感じた。
- ・ 児童生徒の感想には自己肯定感の向上が感じられた。家庭で家族に認められて感じる自己肯定感と、家の外で他人に認められたり頼られたりして感じる自己肯定感は異なると思う。学校や地域での活動で、他人から認められる経験は大切である。

2 地域の子どもの安全を守る取組について

○ 地域で

- ・ 子どもたちには自己防衛本能をつけさせたい。
- ・ あいさつしたり声掛けしたりして、見守っていることを感じてほしいが、地域での人間関係が希薄になっているのもあり、子どもたちは知らない大人から声をかけられることに身構える部分があるかもしれない。

○ 各家庭で

- ・ 知らない人にはついていかないなど、基本的なことは繰り返し教えないといけない。
- ・ 子どもが家を出る際や帰宅した際に、家に誰もいなくても「いってきます」「ただいま」など言うようにして、通りがかった人から「家に大人がいない」ことを悟られるようなことがないようにする工夫は必要である。

○ 各学校で

- ・ 中学校では不審者への対応や災害への対応など、各教科の授業での指導と並行して、学級活動などでタイムリーな発信をするようにしている。